

～館山から勝浦へ

房総開拓の御祭神

天富命と忌部氏の足跡を巡る～

房総のルーツをたどる 神社めぐり

ガイド
ブック



●一般社団法人 館山市観光協会

〒294-0045 館山市北条1879-2

☎0470-22-2000

<https://tateyamacity.com/>



●一般社団法人 南房総市観光協会

南房総市観光インフォメーションセンター

〒299-2403 南房総市富浦町原岡89-3

☎0470-28-5307

千倉観光案内所

〒295-0004 南房総市千倉町瀬戸2079

☎0470-44-3581

<https://www.cm-boso.com/>



●一般社団法人 鴨川市観光協会

JR安房鴨川駅前案内所

〒296-0001 鴨川市横渚945-2

☎04-7092-0086

天津小湊観光案内所

〒299-5502 鴨川市内浦405-16

☎04-7095-2218

<http://www.chiba-kamogawa.jp>



●一般社団法人 勝浦市観光協会

〒299-5225 勝浦市墨名815-56

☎0470-73-2500

<https://www.katsuura-kankou.net>



発行：一般社団法人勝浦市観光協会

監修：遠見岬神社

協力：館山市立博物館

安房神社 他 掲載各神社

千葉県

館山市／館山市観光協会

南房総市／南房総市観光協会

鴨川市／鴨川市観光協会

勝浦市

参考：館山フィールドミュージアム

千葉県神社名鑑



※冊子内の情報は、令和6年9月現在のものです。

Copyright ©2024 勝浦市観光協会 All right Reserved

本誌掲載の写真・図版・記事等の無断複写・転載を禁じます

房総神社めぐりのススメ

寄稿 佐々木 優太

何百年も前に生きていた人たちに、
会って話すことは出来ません。しかし、
先人たちの思いや、生きた証を受け取る
ことが出来る場所があります。それが神
社なのです。社殿の彫刻の表情からは、
先人たちの生き様を。神社名や地名から
は、今を生きるあなたへ繋がるルーツを
知ることが出来るのです。房総は、それ
らが豊かに息づく地域と言えるでしょ
う。

現在の千葉県南部は、その昔「安房の
国」と呼ばれていました。なぜ、そうと
わかるのか。それもそのはず、安房神社
というお社が鎮座しているからなので
す。歴史や伝承など、難しいことは置い

といて、まずは参拝に上がってください。

歴史の勉強のために神社参拝をするの
ではありません。神社へ参拝に上がった
ときに、感じるものがあるのです。そし
て、それを房総の神社巡りで紡いでくだ
さい。安房神社の神様は、どこから来て、
どこへ向かったのか。何を興じたのか。

そんなことを考えながら神社を巡るうち
に、新しい発見に出会うことでしょう。
また、いつも見ていた房総が、違って見
えてくるかもしれません。

道中はきつとお腹がすくはずです。そ
こで出会おうお店やグルメ、スイーツも、
ぜひ楽しんでほしいのです。なぜなら、
きっとそれらも房総の神社や神様と縁が

あるものだから。グルメと神様には縁が
無いようですが、そんなことはありません。
現代に生きる人が受け取るすべての
恵みは、この地域を生んだ神様と発展さ
せた先人たちの思いの上に成り立ってい
ますから。



佐々木優太氏プロフィール
昭和59年7月7日生まれ 兵庫県出身
神社巡拝家・ラジオパーソナリティ。
これまで参拝した神社は1万社以上、神社の
歴史や造詣も深く、その知識量は神職も認め
るほど。
「神社ソムリエ」として、TV・ラジオ・雑
誌・Youtube・講演会などで神社の魅力を発
信している。

目次

房総神社めぐりのススメ 寄稿・佐々木 優太氏	2
房総のルーツをたどる	
忌部氏と天富命ものがたり	4
天富命・忌部氏ゆかりの神社・史跡	8
南房総を語るうえで欠かせない神社	20
参拝の豆知識	22
コラム…お参りをする。	25
房総のルーツをたどる神社めぐり たびマップ	26



※各神社とも神職が不在の場合があります。御朱印やお守りの授与を希望される場合は事前に各神社にお確かめください。

※御祭神の表記について
同じ御祭神であっても歴史書や各神社の縁起により表記が異なる場合があります。

※例大祭日については変更となる場合があります。

凡例	御祈祷	御朱印	お守り
	駐車場	トイレ	

忌部氏と天富命ものがたり

忌部氏・天富命とは

「忌部(いんべ)氏」とは「穢れを忌み嫌い、神聖な仕事に従事する氏族」の意で、天太玉命(アメノフトダマノミコト)を祖とし、中臣氏とともに朝廷の祭祀を司り、祭具の製造や宮殿・神殿の造営などを行う名門氏族でした。

平安時代に書かれた神道資料『古語拾遺』によると、始祖の天太玉命は、高皇産靈神(タカミムスビノカミ)の子と伝えられています。天照大御神(アマテラスオオミカミ)の子・天忍穗耳尊(アメノオシホミミノミコト)と高皇産靈神の子・栲幡千姫命

(タクハタチチヒメノミコト)が結婚して生まれたのが、天皇家の祖先・瓊瓊杵尊(ニギノミコト)です。瓊瓊杵尊が天照大御神より地上を治めるように言われ、地上に降臨した際に天太玉命も従いました。天富命はこの天太玉命の孫にあたる神さまです。

天富命の御実績の一つを『古語拾遺』に見ることができます。初代天皇である神武天皇は東征を終え、都を橿原(奈良県)につくる際、天富命に皇居(橿原宮)を造営するよう命じました。そこで天富命は、手置帆負命(タオキホオイノミコト)、彦狭知命(ヒコサ

土地を求めて阿波忌部氏の一部を連れて海を渡ります。黒潮にのって東へ、やがて着いた土地が今の房総半島です。上陸した御一行はさっそく麻や「穀」を植えました。すると特に麻の育ちがよく、麻の古語である「総(ふさ)」から総国と命名しました。上総国、下総国という名称もここから由来します。また居住地には、祖神である天太玉命の社(現在の安房神社)を創建し、以前いた四国の阿波国の名をとって「安房」と名付けました。今でも四国から房総半島までの黒潮のルート上に阿波・安房(あわ)、目良・布良・女良・妻良(めら)、白浜(しらはま)・勝占・勝浦(かつうら)などの同じ地名が多数あるのはこのためだと言われています。



「天富命安房国に御渡航の図」寺崎武男作
官幣大社安房神社縁起壁画

帆負命を祖とする讃岐忌部氏、天目一箇命(アメノマヒツノミコト)を祖とする筑紫国・伊勢国の忌部氏など、忌部氏は開拓のため各地に広がり、多数の氏族に枝分かれしていきます。

房総半島へ渡り、文化を伝える

天日鷲命の孫たちを従え、阿波国の開拓をした天富命は、さらに豊かな

シリノミコト)の二柱の神様の孫を引き連れて「斎斧(いみおの)神聖な斧)」「斎鋤(いみすき)神聖な鋤)」を使い、初めて山の木を伐り、正殿を築きました。そして、各忌部氏族を率いて種々の神宝を作るように命じ指揮したのです。この時、天日鷲命(アメノヒワシノミコト)の孫は天富命に従い、阿波国麻植(後の麻植郡)において祭祀に使用する麻や「穀」(かじ)こうぞの一種、和紙の原料となる)の栽培をし、阿波忌部氏となります。その他、櫛明玉命(クシアカルタマノミコト)を祖とする出雲国の玉作氏(たまつくりし)、彦狭知命を祖とする紀伊忌部氏、手置

忌部氏が最初に上陸した地は館山市布良の阿由戸の浜で、その際、海岸に近い男神山に天太玉命、女神山に后神の天比理刀咩命(アメノヒリトメノミコト)をお祀りした事が、安房神社(館山市大神宮)の起源と言われています。

そして、次に鴨川市天津の二夕間海岸付近に上陸され、清澄山山頂に登られ長狭を平定されました。その旧跡に住民が天富命をお祀りしたのが、天富神社(鴨川市清澄)と言われています。上陸した海岸付近には明神礁という岩礁が残されており、現在「明神の鯛」という碑が建っています。

また、伝承によると、天富命と阿波

安房の開拓を終えられた天富命は、さらに開拓を進められます。勝浦に伝わる「上野神話」によると、「天富命は更に沃地を求め国見を続け、上野村名木に木材を掌る御木忌部(み



「祖神を偲ぶ天富命の図」寺崎武男作
官幣大社安房神社縁起壁画

きいんべ)を置き、細殿に仮宮を建て、諸所に麻植忌部(おえいんべ)を配して麻穀増殖に当たらしめ、荒川には館を造る阿良香忌部(あらかいんべ)を置き、勝浦には勝占忌部須須立命(カツラインベススタツノミコト)を留めて漁業を広め、神司を掌らしめた。」とあります。

そして、房総半島の開拓を終えた

町の麻綿原(麻と綿の産地↓まめんばら)や総元(総国から)、鴨川市の長狭(良質な麻・ながあさ↓ながさ)、勝浦市の植野(麻と穀を植えた)、総野(総国から)など、麻に由来した地名が多くあります。また、総国は安房国、上総国、下総国のみならず武蔵国(現在の東京都、埼玉県、神奈川県の一部)、相模国(神奈川県)も含んでおり、総国の一部が分割され総上(ふさかみ)・総下(ふさしも)となり、それぞれ「ふさかみ↓さかみ↓さがみ」、「ふさしも↓ふさし↓むさし」と転じて武蔵相模となったという説があります。

天富命の「富」に由来した地名

・館山市の富崎地区(とみさき)の地名は、天富命の名と岬に位置する地域

天富命は、「天太玉命の社を遠く見は

るかし、千代もつきせす祭祀を行いたい」と途中立ち寄った勝浦に再びおいでになり、遠見岬(現在の八幡岬)突端の富貴島に住まれ、朝夕に天太玉命の社を遙拝したと伝わります。天富命がお隠れになった後、勝占忌部須須立命が居跡の富貴島に天富命をお祀りしたのが遠見岬神社(勝浦市浜勝浦)の起源とされています。

千葉県にはその他にも、洲宮神社(館山市洲宮)、洲崎神社(館山市洲崎)、布良崎神社(館山市布良)、下立松原神社(南房総市白浜・南房総市千倉)や莫越山神社(南房総市杵見・南房総市宮下)、瀧口神社(鴨川市太尾・鴨川市花房)、痔神社(鴨川市西町)、明神の鯛(鴨川市天津)など、忌部氏に関連する神社や地名、伝承が多く残さ

であることに由来しています。

・南房総市の富山(とみさん)は天富山から転じたもので天富命が指揮を執った場所であり、天富命の墳墓があ

れています。

阿波忌部氏と麻

古来、麻は神さまが依り魔を祓うと考えられていたため、しめ縄や被具など、神聖なものとして扱われてきました。天皇が御即位された後に行われる踐祚大嘗祭で、繪服(にぎたえ・絹の織物)とともに、神御衣(かむみそ)として神さまにお供えする麩服(あらたえ・麻の織物)は、代々、阿波忌部氏として伝えられ、現在も阿波忌部氏である三木家が調進しています。

麻に由来した地名

千葉県には旧国名の総国(麻の古語・ふさ↓ふさのくに)を始め、匠(美しい麻・さふさ↓そうさ)、佐倉(麻の倉・あさくら↓佐倉)、大多喜

るとも言い伝えられています。

・勝浦市の遠見岬神社は江戸時代まで富大明神と称され、元は富貴島(現在の福島)にあったと言われています。

遠見岬神社は創建時の由緒にちなみ、安房神社の方角である南西に向けて建てられています。遠見岬神社と安房神社を線で結ぶと、下立松原神社(牧田)、安房神社、布

良崎神社、男神山・女神山、阿由戸の浜、三原山(伊豆大島)がほぼ一直線上に並びます。また、遠見岬神社と天富神社を直線で結ぶとその先には富士山がそびえます。

遠見岬神社と二つのレイライン(太陽のとおりみち)



三柱(みはしら)神社
(富津市竹岡)養老3年(719)創建
房総開拓の祖神である安房大神
(天太玉命、天比理刀咩命)、
下立松原神(天日鷲命)を祀る神社。

天富命・忌部氏ゆかりの神社・史跡



館山市大神宮589
☎0470-28-0034
主祭神 天太玉命・天比理刀咩命
(摂社に天富命)
創建年 皇紀元年(紀元前660年)
例大祭日 8月10日

🌿 📄 🚰 🅑 🚻

アクセス JR/バス関東
南房州本線
「安房神社前」下車
徒歩7分



日本のすべての産業の総祖神

安房神社の創始は、神武天皇が初代の天皇として御即位になられた皇紀元年と伝えられています。神武天皇の勅命により四国阿波の開拓を終えられた天富命(アメノトミノミコト)は、阿波国に住む忌部氏とともに海路黒潮に乗り、房総半島南端に上陸し房総半島の開拓に従事されました。

房総開拓の成就を自分のご先祖である天太玉命(アメノフトダマノミコト)とその后神である天比理刀咩命(アメノヒリトメノミコト)に感謝するために布良の男神山・女神山にそれぞれ



れお祀りしたことが安房神社の起源です。
主祭神である天太玉命は、天照大御神のお側近くにお仕えになられた神様で、中臣氏と共に朝廷の祭祀を司った斎部氏(忌部氏)の祖神にあたります。
天照大御神が弟神・素戔嗚

尊(スサノオノミコト)のあまりにも乱暴な振る舞いにお怒りになり、天の岩屋にお籠もりになられてしまった時には、中臣氏の祖神・天兒屋命(アメノコヤネノミコト)と共に力をあわせて、大御神の御出現を願うためのお祭りを行なわれましたが、当社御祭



神はそれ以外にも御自身の率いる忌部の神々を指揮され、このお祭りを行なうために必要不可欠な鏡や玉、神に捧げる幣帛や織物、威儀物としての矛や楯といった武器、社殿の造営などを司っており、ここから、日本における全ての産業の総祖神として崇敬され



ています。また、下の宮には天富命が祀られています。



おがみやまめがみやま
男神山・女神山
あゆどはま
阿由戸の浜

安房神社の
起源となる山

天富命（アメノトミノミコト）が阿波忌部氏を率いて四国から房総半島に渡った際、最初に上陸した地とされるのが布良の阿由戸の浜です。
上陸した天富命は海岸にそびえる2峰の海岸に近い男神山には総祖神・天太玉命（ア



中央の山が「男神山」、右の山が「女神山」です

メノフトダマノミコト）、女神山には御后天比理刀咩命（アメノヒリトメノミコト）を祀りました。

館山市布良
アクセス
JRバス関東南房州本線
「布良崎神社」下車
徒歩約6分

すのさきじんじゃ
洲崎神社



館山市洲崎1621
主祭神 天比理乃咩命
創建年 神武天皇の時代
例大祭日 8月21日
アクセス JRバス関東洲の崎線「洲の崎神社前」下車
徒歩2分

石橋山の戦いに敗れた
源頼朝が
源氏の再興を祈願

天富命（アメノトミノミコト）の祖母神であり、忌部の総祖神・天太玉命（アメノフトダマノミコト）の後神である天比理乃咩命（アメノヒリノメノミコト）をお祀りしています。

鎌倉時代には源頼朝の崇敬を受け、石橋山の合戦に敗れて房総に逃れてきた源頼朝が源氏の再興を祈願し、田地を寄進したことから、再起・再興の

神様として信仰されています。また、鎌倉時代には源頼朝が洲崎明神を品川に勧請して品川神社に、戦国時代の初めには太田道灌が江戸城近くには

勧請して城の鎮守（今の神田明神）とするなど広い信仰がありました。境内からは美しい富士山を望むことができます。



毎年1月1日には
「御田植神事」が行われます

すのみやじんじゃ
洲宮神社



館山市洲宮921
主祭神 天比理刀咩命
創建年 神武天皇元年（紀元前660年）
例大祭日 8月10日
アクセス JRバス関東南房州本線「洲の宮」下車
徒歩2分

天富命（アメノトミノミコト）の祖母神であり、忌部の総祖神・天太玉命（アメノフトダマノミコト）の後神である天比理刀咩命（アメノヒリ

トメノミコト）をお祀りしています。西岬の洲崎神社と同神で、洲崎神社が拜所、洲宮神社が奥宮であるともいいます。

神武天皇元年に天富命が魚尾山に創建し、当時海辺にあったことから洲神または洲宮と称されたと伝わっています。文永10年（1273年）の火災で消失し現在地に移動されました。遷座した現在地も古代祭祀遺跡であったことがわかっており、境内から出土した祭祀用土製模造品と洲宮神社縁起、南北朝時代の木造天部立像が市の指定文化財になっています。

社殿から一の鳥居と
二の鳥居を通して
望む富士山は絶景



めらさきじんじや 布良崎神社

館山市布良379
主祭神 天富命 創建年 不詳
例大祭日 7月20日過ぎの土曜
アクセス JR/バス関東南房州本線「布良崎神社」下車すぐ



主祭神に天富命（アメノトミノミコト）、相殿に素戔鳴尊（スサノオノミコト）・金山彦命（カナヤマビコノミコト）をお祀りする安房神社の前殿です。房総に上陸した天富命は布良の一角を駒ヶ崎と称し、男神山に祖神・天太玉命（アメノフトダマノミコト）、女神山に御后・天比理乃咩命（アメノヒリノメノミコト）を祀りました。ここを出発点として房総開拓を進められ、天富命が安房を去ったのち、里人が天富命の徳を忍んで社殿を造営したものが布良崎神社といわれています。社殿と鳥居が海に向かつて一直線に並んでおり富士山を望むことができます。



南房総市白浜町滝口1728
主祭神 天日鷲命
創建年 神武天皇元年（紀元前660年）
例大祭日 8月1日に近い土日
アクセス JR/バス関東南房州本線「本郷」下車徒歩8分
日東交通豊房線「松原神社前」下車徒歩3分



安房に逃れた源頼朝が太刀を奉納した神社
天富命（アメノトミノミコト）とともに安房に渡り当地を開拓した天日鷲命（アメノヒワシノミコト）の孫の由津主命（ユフツヌシノミコト）が、祖神の天日鷲命をお祀りした神社です。天太玉命や、天富命も祭神と

して祀られています。

天富命らが安房に上陸した当時、野山に鹿が多く、住民がその被害に苦しんでいたのを神々が狩りを行い安堵させた伝承があり、それに因んで旧暦11月26日から10日間、神事として神狩祭が行われます。

す。石橋山の合戦に敗れ、安房に逃げ延びた源頼朝が太刀を奉納し、再起を祈願したいわれています。



源頼朝が自ら書写した 大般若教を奉納した神社

天富命（アメノトミノミコト）に従って、安房にやってきた阿波忌部の子孫である美努射持命（ミノイノチノミコト）が、神武天皇元年に天日鷲命（アメノヒワシノミコト）をお祀りしたのが起源と伝えられています。

源頼朝が、当社の末社である御霊白幡神社に源頼義・義家の木像と薬師如来の像、頼朝が自

ら書写した大般若経600巻を奉納しました。大般若経は明和9年（1772年）に石函に納めて境内の経塚に埋められました。

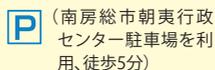
この神社は鳥居がありません。源頼朝が石橋山の合戦に敗れ安房に逃れてきた時に戦

勝祈願をしたとされ、その際に敗戦の身であることから鳥居を避けて脇から入ろうとしたところ、氏子達が鳥居を取り除き招き入れたとされることから、以来鳥居は造られることなく、鳥居の無い神社となりました。



Photo

南房総市千倉町牧田193
主祭神 天日鷲命
創建年 神武天皇元年（紀元前660年）
例大祭日 10月10日
アクセス JR内房線千倉駅下車 徒歩4分
日東交通白浜千倉館山線「牧田郵便局前」下車すぐ





南房総市宮下27
主祭神 手置帆負命
 彦狭知命
創建年 神武天皇元年
 (紀元前660年)
例大祭日 10月10日

P
アクセス 日東交通丸線
 「川谷」下車徒歩6分

る祖神講の信仰を集めました。時代末期には江戸を中心に結成された大工・左官などが組織する祖神講の信仰を集めました。

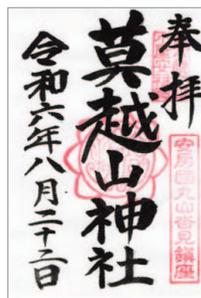
な こし やま じん じゃ 莫越山神社 (宮下)

武具・祭具・建築の守護神

建築の神がまつられています
 神酒醸造神事が有名
 祭神は手置帆負命(タオキホオイノホオイノミコト)と彦狭知命(ヒコサシリノミコト)。社伝では、天富命(アメノトミノミコト)が忌部氏を率いて布良に上陸して開拓をはじめた時、これに従っていた工人

手置帆負命(タオキホオイノミコト)、彦狭知命(ヒコサシリノミコト)をお祀りする、沓見の莫越山神社と同じ由緒を持つ神社です。神社北側の渡度山(とどさん)、別名莫越山を御神体に遥拝所として造営され、神社周辺からは古墳時代の祭祀遺跡が複数発見されています。御祭神が工匠の守護神とされることから建築職人からの信仰があり、江戸時代末期には江戸を中心に結成された大工・左官などが組織する祖神講の信仰を集めました。

な こし やま じん じゃ 莫越山神社 (沓見)



南房総市沓見253
 ☎0470-46-2362
主祭神 手置帆負命・彦狭知命
創建年 神武天皇元年(紀元前660年)
例大祭日 7月9日

P
アクセス 日東交通館山鴨川線
 「加茂瓦屋前」下車 徒歩8分

の小民命(コタミノミコト)と御道命(ミチノミコト)の願いにより、その祖神2柱を祀ったのが始まりとされています。この二祖神は武具(盾)・祭具・建築の工匠として知られる神。全国的にも稀な、神酒醸造神事を行う神社です。



鴨川市天津
P
アクセス JR外房線
 安房天津駅下車
 徒歩9分

「鯛の浦」と同様に、世界でも珍しい海域とされています。千葉県天然記念物指定。

みょう じん たい 明神の鯛

浅瀬には黒鯛はじめ多くの魚が集まるめずらしい場所

伝説によると、「天富命(アメノトミノミコト)が東房総平定のため海路よりこの岬に上陸し清澄寺を開き、長狭の平原を定め、里人に農事を教え、里人上陸の地を明神の岬と称した」とされています。約200mの沖合に水深3m(干潮時)と大変浅い所にもかかわらず、黒鯛を始め多くの魚類が生息しています。小湊の



瀧口神社 (太尾)



朱塗りの鳥居が印象的な神社

平安時代後期の寛治4年(1090年)に鈴木玄蕃忌部義茂が天日鷲命(アミノヒワシノミコト)を祭神とする安房郡滝口村(現白浜町)の下立松原神社を太尾の地に勧請して滝口大明神を創建したといわれています。明治44年

(1911年)の神社合祀政策によって太尾字若宮神社や太平の八雲神社を合祀したので祭神は天日鷲命ほか十一柱を数えます。

鴨川市太尾445
主祭神 天日鷲命
創建年 寛治4年(1090年)
例大祭日 9月第4土曜

P
アクセス 日東交通長狭線「大宮坂下」下車 徒歩7分

もうけじんじゃ 寺神社

源頼朝ゆかりの神社

創立年代は不詳ですが、往古の創建と伝えられています。治承四年(1180年)に源頼朝が安房に逃れ当社に平家追討の祈願を行い、後に所願成就したのでこの地を伊勢神宮に寄進し御厨(みくりや)としたと伝えられています。



鴨川市西町701
主祭神 天日靈貴命(アミノオオヒルメチノミコト) 天日和志命(アミノヒワシノミコト)
創建年 不明
例大祭日 10月第2日曜

P **♿**
アクセス JR安房鴨川駅から鴨川市コミュニティバス循環線「青果市場前」下車 徒歩12分 日東交通鴨川市内線「亀の井ホテル鴨川」下車 徒歩29分

また、一説には源頼朝がこの地を瀧口神社の御厨料として寄進され、その後社殿を建てて瀧口寺神社と称したともいわれており、拝殿には「瀧口寺明神」の神額があります。

花房藩鎮守の氏神

天日鷲命(アミノヒワシノミコト)、素盞鳴命(スサノオノミコト)、應神天皇(オウジンテンノウ)、菅原道真をお祀りしています。

後花園天皇の文安二年(1445年)、里美義実公が当地の豪族東条氏を滅ぼし



て後、その家臣が漸次当地方に土着するようになり、それに伴って鎮護の氏神として奉斎崇敬したのが当社であるといわれています。明治元年9月西尾忠篤が封ぜられて花房藩を置かれた時、鎮守の氏神として尊崇されました。

たきぐちじんじゃ 瀧口神社 (花房)

鴨川市花房874
主祭神 天日鷲命
創建年 不詳(元龜・天正のころ) 1570~1592頃
例大祭日 10月第1日曜

P
アクセス JR安房鴨川駅から鴨川市コミュニティバス循環線「花房」下車 徒歩6分 JR安房鴨川駅から徒歩43分

あまとみじんじゃ 天富神社

境内からの眺めは「関東の富士見百選」に選定されています

天富命(アミノトミノミコト)が安房国を開拓した際、清澄山に登ったといわれ、その旧跡に土地の人々が社殿を建てて天富命を祀ったと伝えられています。昔は清澄山頂の妙見山にあり、清澄寺が社僧



鴨川市清澄323
主祭神 天富命
創建年 不詳
例大祭日 4月22日

P **♿**
アクセス JR安房天津駅下車 タクシー約10分

でしたが、神仏分離の際に現在の地に移りました。また、天富命の墳墓が清澄山の西隣にある富山(とみさん)にあり、その廟所が清澄の妙見山であったとの伝承があります。



とみさきじんじや
遠見岬神社

勝浦市浜勝浦1
☎0470-73-0034
主祭神 天富命
創建年 平安時代以前
例大祭日 敬老の日を含めた土日月



アクセス
JR外房線
勝浦駅下車
徒歩10分



**房総開拓の祖神
勝ちを占め、人々に富を
授け豊かにする神社**

房総半島に技術と文化をも
たらした天富命（アメノトミ

ノミコト）をお祀りする古社
です。

房総の開拓を終えられた天
富命は、自身が安房の地にお
祀りした天太玉命（アメノフ
トダマノミコト）と天比理乃
咩命（アメノヒリノメノミコ
ト）を遠く見渡すことのでき
るこの地に住み、朝晩に遙拝
されたといわれています。そ
して、天富命がお隠れになる
と、天日鷲命（アメノヒワシ
ノミコト）の末裔である勝占
忌部須須立命（カツラインベ
ススタツノミコト）がその住
居跡に天富命をお祀りしまし
た。これが遠見岬神社の起源
と伝えられています。

はじめは遠見岬（現在の八
幡岬）突端の富貴島（現在の
福島）にありましたが、江戸
時代初期の慶長津波により社

殿が流されたため、現
在の場所に遷座しまし
た。なお、旧社地はそ
の後の元禄大地震によ
り海没しましたが、そ
の一部が福島や平島と
して現在ものこされて
おり、「平島の鳥居」
は神社だけでなく勝浦
のシンボルとなってい
ます。また、江戸時代
までは「富大明神」と
称し、富と勝ち運を授
かる神としての崇敬を
集めました。

近年では毎年2月下旬か
ら3月にかけて開催される
「かつうらビッグひな祭り」の
会場としても知られていま
す。社殿には四代目「波の伊
八」の彫刻などがのこされ
ており、境内からは勝浦の街並

みと海を一望することができ
ます。



天津神明宮



鴨川市天津2950

☎04-7094-0323

主祭神 天照皇大御神
創建年 寿永3年
(1184年)

例大祭日 10月16日



アクセス 日東交通鴨川市内線
「神明神社前」下車 徒歩5分

源頼朝公が伊勢神宮より御分霊を勧請し創建
神代のむかし、事代主神(コトシロヌシノカミ)は安房に
おいでになり、東方鎮護の神としてお鎮まりになったため、
人々は宮殿を建て、もうけ明神(えびす様)と尊称したと伝
えられています。その後、源頼朝公が戦に敗れて安房の地に
逃れてきたとき、源家の再興を伊勢の大廟に祈願して成就
されたことから、永寿3年(1184年)に伊勢より神霊を
勧請し、もうけ明神とともに祀りされ「房州伊勢の宮」と
仰がれる天津神明宮が創建されました。日蓮聖人が修行
地清澄への道程、必ず参拝されたと言
われており、開宗ののち、妙法弘通(ぐ
つう)を祈願され、そのとき奉納され
た「川向の御曼荼羅(布本尊)」が神社
の宝物として伝え遺されています。



鶴谷八幡宮



館山市八幡68

☎0470-22-1258

主祭神 品陀和氣命(ホンダワケノミコト)
帯中津彦命(タラシナカツヒコノミコト)
息長帯姫命(オキナガタラシヒメノミコト)

創建年 平安初期

例大祭日 敬老の日前の土日



アクセス
日東交通館山市内線
「八幡神社前」下車すぐ

安房国の総社。安房国司祭「やわたんまち」は必見
安房国の総社で、もともと三芳村府中にあったものが、鎌
倉時代に現在地、館山市八幡に移転したといわれています。康応
2年(1390年)には安西八幡宮の名で資料に現れています。そ
の祭礼を「やわたんまち」といって地域最大のお祭り「安房
国司祭」といい、10社の神輿、5基の山車・お船が出祭しま
す。拝殿正面の格天井にはめ込まれている彫刻は、百態の龍
と呼ばれる後藤義光の作品です。

高家神社



南房総市千倉町南朝夷164

☎0470-44-5625

主祭神 磐鹿六雁命
創建年 平安時代以前

例大祭日 5月17日、10月17日、11月23日



アクセス 日東交通白浜千倉館山線
「高家神社入口」下車 徒歩10分

料理の祖神
醤油づくりの神です
高家神社は、全国で
もめずらしい料理の神
様「磐鹿六雁命(イワカ
ムツカリノミコト)」「尊
称・高倍神)を祀る神
社。料理関係者や味噌・
醤油などの醸造業者など
も多く参拝に訪れます。
毎年5月、10月、11月
に平安時代(794-
1185)の宮中行事を
再現した「庖丁式」奉納
が執り行われます。



瀧口神社(部原)



勝浦市部原1921 ☎0470-73-4007

主祭神 日本武尊

創建年 延暦元年(782年)

例大祭日 9月13日



アクセス JR勝浦駅からタクシー約8分

病氣平癒の霊場としても知られています
社伝によると、この地は日本武尊が東征の折、
里人を困らせている大蛇を退治されたことから
「蛇原」後に「部原」と呼ばれるようになり、その
功績を讃え祠にお祀りしたのが瀧口神社の始ま
り、江戸時代には勝浦藩主
より正月と例祭の年に2
度供進がありました。



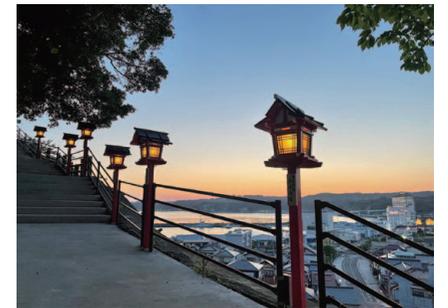
南房総を語るうえで欠かせない神社

忌部氏ゆかりの神社以外にも
たくさん神社があります

参拝の豆知識

◎ 手水の作法

- 浅く一礼をして手水を始めます。
- 右手でひしゃくの柄(え)を持ち、たっぷり水を汲み上げます。
- まず左手を洗い、次に柄を左手に持ち替え、右手を洗います。
- ※手水鉢に水が入らないようにしましょう。
- もう一度柄を右手に持ち替え、左手に水を溜めてその水で口をすすぎます。
- ※ひしゃくに口をつけないようにしましょう。
- 口をつけた左手を洗い、ひしゃくを両手で立て、残った水で柄の部分の洗い清めてから元の位置に戻します。
- ※流水など、ひしゃくのない場合は、両手↓口↓両手の順で手水を行います。



◎ 参拝の作法

- 手ぬぐいやハンカチなどで口と手を拭き、最後に浅く一礼をします。
- ご神前に着いたら浅く一礼し、姿勢を正します。
- 賽銭箱にお賽銭を入れ、鈴緒(すずのを)などがあれば静かに鳴らします。
- 背筋を平らにし、腰を90度に折り、2回深く礼をします。(二拝)
- 胸の高さで両手を合わせ、右手を少し下にずらし、2回手をたたきます。(二拍手)
- 次に、ずらした右手を元に戻し、手を合わせます。
- ※お願い事などがあれば、この時に神さまにお伝えしましょう。
- もう1回、深く礼をします。(一拝)
- 最後に浅く一礼してご神前を下がります。



ペットを連れて参拝してもいいの?

神社の境内は参拝者が祈りをささげる場所であり、神職が祭祀を行う神聖な場所です。清浄を保つためにペットを連れての参拝はご遠慮いただいているか、約束を定めている神社がほとんどです(盲導犬等の補助犬はもちろん大丈夫です)。詳しくは各神社でご確認ください。

◎ 玉串拝礼の作法

● 神職から手渡された玉串は両手で受け取ります。このとき枝元を右手で上から、葉の部分を手で下から持ち、葉の部分を少し上に上げ、胸の高さで持ちます。

● 次に、神前に進み出て一礼します。

● 左手を上げて葉先を立て、次に左手を枝元に添えてお祈りをします。

● お祈りが終わったら、玉串を時計回りに180度回し、枝元をご神前に向けて玉串案（玉串を捧げる机）の上にお供えます。

● 二拝二拍手一拝の作法でお参りします。



お参りをする。

文・佐々木 優太

神社では「二礼二拍手一礼」と書かれているのを、よく見かけます。より正しく表現すれば「再拝二拍手一拝」となります。意味はほとんど一緒なのですが、実は「拝」という漢字は、お辞儀の角度を表していることをご存知でしょうか。それは90度。意外に深い、と思った人も多いのではないのでしょうか。もちろん、それぞれの人に事情がありますから、無理のない範囲での「深いお辞儀」を心がければ大丈夫です。

まずは、深いお辞儀を二回します。次に手を打つ拍手です。拍手は、手を合わせた状態から右手を自分の方へ少し引き、左右の手がずれた状態で2回打ちます。打ち終わったら、また両手を合わせます。ここで祈りを捧げ、最後にもう一度深いお辞儀をします。この一連の所作が、参拝の作法とされています。

気になることといえば、御賽銭の額です。結論から言えば、額に正解はありません。千円を持っている人の十円と、十円しか持っていない人の十円。これらは同じ十円ですが、価値が全く違います。さらに、御賽銭は、願い事を叶えてもらうための対価ではないのです。今日あなたが参拝に上がったのは、あなたより前に参拝に上がった人が御賽銭を納めてくれたから。だから今日まで神社が維持されてきたのです。あなたが納める御賽銭は「次の人が参拝へ上がるその日まで、神社がありますように」との思いで納めるものなのです。

参拝の作法や御賽銭を通して、先人たちや地域からの縁を感じられる場所。それが神社です。あなたが神社へ参拝に上がる時は、まだ見ぬ誰かのことを思って手を合わせてください。誰かを思うその気持ちは、あなた自身を大切に思う気持ちと同じなのです。

各神社の「ならでは」をいただく

神社では、お神札だけでなく、御祭神や由緒にちなんだお守りや御朱印帳をいただけることもあります。

神社巡りの際に、各神社の「ならでは」をいただくことも楽しみのひとつです。



遠見岬神社
新月塩守・満月塩守



遠見岬神社
勝守



遠見岬神社
しあわせ守り・御朱印帳・朱印帳袋



高家神社
料理上達御守



遠見岬神社
金女みくじ
勝男みくじ



瀧口神社(部原)
サーフィン絵馬



天津神明宮
運氣向上守



安房神社
追風守(本麻製)

房総のルーツをたどる神社めぐり

たびマップ



かつうらビッグひな祭り・勝浦市



edén・勝浦市



勝浦灯台・勝浦市



渚の駅たてやま・館山市



野島埼灯台・南房総市



鴨川シーワールド・鴨川市



鵜原理想郷・勝浦市



城山公園・館山市



道の駅和田浦WA-O!・南房総市



誕生寺・鴨川市



勝浦朝市・勝浦市



沖ノ島・館山市



白間津花畑・南房総市



清澄寺・鴨川市



かつうら海中公園・勝浦市